



ロータリーの友便り

ロータリーの友
地区代表委員

庄野 晋吉

(大阪RC)

(1)ロータリーの友・3月号推奨記事 ※推奨記事順
【3ページ】

まず、今月のRI会長メッセージです。ラビンドラン会長が、出身地のスリランカのインターアクトクラブでの講演の時に経験されたことを取り上げられて、眼からの情報の方が耳からの情報より伝わり易いので、身を以て示す方が言葉で伝える教訓よりはるかに伝わると述べておられます。

我々ロータリアンは皆、ロータリーの代表であるから、自分たちの考え、発言、行動、そしてどの様に活動を行うかによって、子供達を、人々を導いていかなければならないと仰っています。

【14~15ページ】

ロータリー研究会からの報告で、我々の地区・高槻西RCの近藤眞道氏がRI日本青少年交換委員会のアドバイザーとして執筆されています「神からの偉大な贈り物」と題する記事ですが、「ロータリーの友情から生まれた奇跡」と云う副題が示す通りの、奇跡の物語です。

東日本大震災で被災し特に放射能汚染に苦しめられている子供たちをオーストリアに招待したいという、近藤氏にかかってきた一本の国際電話から物語は始まります。そして日本とオーストリアの多くのロータリアンによる「素敵な連鎖」が起るのです。

主人公は立ち入り制限地区・福島県浪江町に住んでいた吉田昴城君でピアニストを目指す高校生でした。自宅に立ち入りが出来ないため、自分のピアノが持ち出せないで困っていたのですが、その困難な状況から、多くのロータリアンの支えと本人の資質によりまして、なんと、なんと世界の音楽の最高峰「ウィーン国立音楽大学」の入学試験に合格するまでの奇跡が連続で起こる物語です。

近藤氏は「while there is life, there is hope. If

you think you can, you can」と締めくくっておられます。吉田昴城君が、あの震災を乗り越えて、ピアノで多くの人々に、夢と希望と生きる力を与える日が来ることを祈りたいと思う素晴らしい記事です。

【12~14ページ】

12月号に続いての「心は共に」の記事ですが、そうです「あれから5年・・・」日本中が、いえ世界中の人々が忘れられない大震災から5年目を迎えますが「ロータリー希望の風奨学金」についての報告です。

振り返ってみますと、震災直後から我々ロータリアンは支援を開始しまして、義援金をガバナー会に寄せまして見舞金1億2300万円をまず届けました。

しかしその残りは翌年度に各地区に返却され、新たに10地区が主唱して「希望の風奨学金」が始まったのです。その辺の経緯が報告されていまして、また現在の運用状況も報告されています。

一方我々の地区は各クラブに被災地支援の方法が任されましたが、多くのクラブはロータリーの基本の一つは「人づくり」として、人材育成に為に多くの支援が行われております。ここには詳細が記載されていませんが、ある程度支援の経緯が判ります。

【48ページ】

「パズルdeロータリー」の12月号の答えと解説です。答えは「45381」。小職もこの数字が何を意味するのか、全く判りませんでした。この解説を読んで驚きました。

2004年5月に大阪で開催されました「国際ロータリー 2004年国際大会」の参加登録者数だったのです。これが過去の国際大会では最多参加登録者数だったのです。多くの方が懐かしく思い出されることでしょう。

千玄室大宗匠を大会委員長とし、近藤雅臣大会実行委員長の元で大阪ドームと国際会議場をメイン会場として、100カ国を超える国々の参加を得てポリオ撲滅や国際平和について話し合わせ、そしてJICA理事長の緒方貞子氏の講演を聞きました。

我々地区を含む4地区が協力して準備実行して当時のマジアベRI会長はじめ、多くの方から感謝された大会でした。この解説を読み直して頂いて当時の苦勞を思い出してみてください。



【67ページ】

「卓話の泉」・「職場におけるハラスメント対策」(大阪鶴見RCでの卓話) 鹿田淳子・特別社会保険労務士による卓話ですが、近年多くの企業で訴訟が起きているハラスメント問題ですが、大変分かり易く解説されています。

一般的に「セクハラ」「パワハラ」「モラハラ」などと言って大略は知っているつもりですが、「ハラスメントとは、性別、社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、身体的特徴などの属性あるいは広く人格に関わる事項などに関する言動によって、相手方に不利益や不快感を与え、あるいはその尊厳を損なうことを言う」との定義を読みますと、なかなか難しく一筋縄では避けられそうにない事象や行動であることが良く分かります。

この問題は、各個人の性格や、成長の過程で家庭や学校で、それと知らずに身に着いてしまったものもありますので、個人が意識せずに発生してしまうことがありますからやっかいなのです。将来はますますその厳しさが強まっていますので、各企業は相談窓口などを設置して、しっかりした対応が必要になると、示唆されています。

(2)第2660地区関連記事

【10ページ】

「ケニアの子供たちに給食を」 東大阪中央RC

阪神タイガース。マートン選手によるチャリティイベントです。

【34ページ】

「RACへの入会をお勧めください!」

2660地区ローターアクト 白川史人

ロータリアンへの勧誘活動のお願いです。

【58ページ】

「大阪の陣から四百年真田山公園を清掃奉仕23年連続行事」 大阪天王寺RC

インターアクターやボーイスカウトと合同で大阪の陣に因んだポイントラリーの雨が降る中を真田山公園のゴミ拾いと清掃を行った素晴らしい活動報告です。

【69ページ】

「バナー自慢」 豊中南RC

江戸時代の有名画家「伊藤若冲」の重要文化財指定原画による見事なバナーです。

【64~65ページ】

ロータリー俳壇

大阪うつぼRC……齊藤隆二(優秀作)

大阪北RC……吉田邦男(優秀作)

大阪北RC……三宅 侃

大阪心斎橋RC……米田文郎

東大阪東RC……溝畑陽子

東大阪東RC……溝畑正信

ロータリー柳壇

大阪西RC……鴨谷瑠美子(優秀作)

【29ページ】

「国際協議会リポート・人類に奉仕するロータリー」の右下写真。

二神編集長による国際協議会報告ですが、その報告写真に、協議会に参加された我々の地区の松本ガバナーエレクト御夫妻が映っておられます。(後ろから2列目中央に松本ガバナーエレクト。お隣で花笠を2つお持ちのご令室)

(3)その他注目記事

【77~81ページ】

「人は自然災害とどう向き合うか」

2760地区・西三河中分区のIM基調講演要旨です。東日本大震災から5年目を迎えて、題記のテーマで仲井豊 愛知教育大学教授の講演、自然災害に対して備えるべき三つの「助」として、自助・共助・公助を挙げておられ阪神大震災のアンケートなどをその根拠を指摘しておられます。一度読む価値があります。

【45ページ】

「ロータリー財団は100年を迎えます」

(二神編集長執筆)

来年100年を迎える財団を創ったアーチ C. クランフから紐解いて、発展していった経緯などが記載してあります。そして来年の財団100周年をどの様に祝うのかと、問いかけておられます。御一読を。